

県立尼崎北高等学校第74回卒業式 校長式辞

清々しい春の気配を感じる今日のよき日、ご来賓や保護者の皆様方のご臨席を賜り、兵庫県立尼崎北高等学校第74回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。

ご臨席賜りました皆様方に厚くお礼申し上げます。

まずは、ただいま卒業証書を授与しました、74期生273名の皆さん、卒業おめでとうでございます。

皆さんは、本校における3年間の課程を修了し、本日、卒業証書を手にすることになりました。教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

また、今日（こんにち）までお子さまを支え、励ましてこられました保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうでございます。こうして卒業式を迎えることができたのは、保護者の皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、尼北での3年間はいかがだったでしょうか。

1年生の春、期待と少しの不安を胸に、校門をくぐった日。新しい仲間と出会い、授業や部活動に挑戦しながら、高校生活に慣れていく日々を過ごしました。自ら考え行動する「自主」の心を育（はぐく）み始めたのがこの時期だったかもしれません。

2年生では、学業や部活動、行事を通じて、自分の得意なことや課題を見つけ、成長を実感したことでしょう。北高祭では、仲間と協力し、一つの目標に向かうことの大切さを学びました。それはまさに「協調」の精神が形となった瞬間でした。

そして、迎えた3年生の1年間。進路という人生の大きな選択と向き合い、自分自身と深く対話する時間を過ごしたことでしょう。時には迷い、悩み、壁にぶつかることもあったはずですが、しかし、そのたびに乗り越えようと努力を続け、周囲に支えられながら、今日この卒業の日を迎えました。まさに、「自律」の力を身につけた証です。

よくご存じの、高浜虚子の作品に

春風や 闘志抱きて 丘に立つ （くり返し）

という句があります。この句が描く情景は、今日（きょう）の皆さんにぴったりではないでしょうか。

春の穏やかな風を背に、未来というあらたな丘を越えようとする若き皆さんの姿を重ねて想像すると、その勇ましさに胸が熱くなります。

この3年間で培った「自主・自律・愛情・協調」の精神は、皆さんがこれから進む道の支えとなります。たとえ困難に直面しても、自分で考え、自分を律し、周囲を思いやりながら、どうか道を切り拓いていってください。

さて、卒業にあたり、私から2つのことについてお話をさせていただこうと思います。

まずは、「これから」のことについてです。

皆さんがこれから進む社会は、決して平坦な道ではありません。

私たちが生きる時代は、今、急激な変化の中にあります。AIやデジタル技術の進化が、人々の仕事のあり方を変えつつあります。ルールやマニュアルに従うだけの仕事は、次々と機械に置き換えられています。

一方で、地球規模の環境問題や、価値観の多様化など、人間だからこそ向き合うべき課題も増えつつあります。

これからの社会では、ただ「正解を早く見つける人」ではなく、「自分で考え、新しい価値を生み出す人」が求められます。

この話に関連して、私は、アメリカ航空宇宙局（NASA）の上級研究員であった 柘植俊一 氏が書かれた『反秀才論』の内容を思い出します。

柘植氏は、反秀才についてこの様にいっています。

“秀才は「頭が速い人」であるのに対し、反秀才は「頭が強い人」である”

「従来の『秀才』のように、与えられた知識を効率よく吸収し、正確にアウトプットする能力だけでは、これからの時代を生き抜くことはできない。むしろ、重要なのは独創的に考え、自ら問題を発見し、解決していく力である」と説いています。

私たちは、長い間、テストで高得点を取ることが「優秀」であると考えてきました。しかし、これからの社会で本当に求められるのは、答えのない問題に向き合い、自分で考え抜く力です。失敗を恐れず挑戦し、柔軟に物事を捉え、粘り強く取り組む人こそが、新しい時代を切り拓いていきます。

ここで、皆さんに伝えたいのは、「完璧な答えを求めるよりも、自分の頭で考え、行動し続けることが大切だ」ということです。どんなに変化が激しい

時代になろうとも、失敗を恐れず、自ら問いを立て、自分で考え、自分の信じる道を進んでください。そして、周りの人々と協力しながら、よりよい未来を築いていくことを願っています。

次に、「これまで」のことについてお話しします。

卒業生の皆さん、ここで少し思い返してみてください。

皆さんの今日の卒業は、皆さん自身の努力の結果であることはもちろんですが、その背後に成長を支えてくれた人々がいたことを。

疲れて帰ってきたとき、黙ってご飯を用意してくれた人がいました。

試験前、不安な顔をしている皆さんをそっと見守っていた人がいました。

部活動で遅くなった日、遠くから迎えに来てくれた人がいました。

眠っている間も、遠く離れた場所にいても、いつも「大丈夫かな」「頑張れているかな」と、見えないところで応援し続けてくれた人がいました。

家族の愛は、時に当たり前すぎて気づきにくいものです。しかし、それは決して当たり前ではないということ。

皆さんがこうして立派に成長し、今日この日を迎えられるのは、ご家族の深い愛情と支えがあったからこそ。どうか、卒業式が終わったら、たった一言でもいい、「ありがとう」と、言葉にして伝えてみてはいかがでしょうか。その一言は、何よりもご家族の心に響く、かけがえのない贈り物になるでしょう。

最後に、保護者の皆様へ。

本日まで、お子様を支え、励まし、見守ってこられたことに、心より敬意を表します。小さな手を引いて歩いていたあの頃が、初めて制服に袖を通した日が、つい昨日（きのう）のこのように思えるのではないのでしょうか。

これまでの関わりすべてが大切な思い出となり、今日という日につながっています。

これから、お子様は新たな世界へと旅立ちます。親としての役目が少しずつ変わっていくことに、嬉しさと寂しさが入り交じることもあるでしょう。しかし、お子様はこの3年間で、多くのことを学び、大きく成長しました。どんな道を進もうとも、その歩みの中には、皆様が注いできた愛情が、確かに息づいています。

本日が、皆様にとっても、お子様の成長を誇りに思える一日となることでしょう。本当におめでとうございます。

卒業生の皆さん、未来は皆さんの手の中にあります。
春風を受け、闘志を胸に、新たな丘を越えてください。
皆さんのこれからの人生が、希望に満ちたものとなるよう、心から願っています。

令和7年2月28日
兵庫県立尼崎北高等学校
校長 岡本 勇人